

2023年度保育所及び認定こども園における自己評価

本年度の本園の保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の保育・教育に活かせる方向で記入して下さい。

・ A B C D の4段階評価です。

A : たいへんよい
 B : よい
 C : 一部検討を要する
 D : 改善を要する

保育所・こども園名【 和歌山認定こども園 】

自己評価の観点	前年度の評価	本年度の評価
1. 園の保育理念・保育方針・保育目標の理解について		
① 会の保育理念を十分に理解し、日々の保育実践に活かしている	B	A
② 園の保育方針、保育目標を理解し、保育を実践している	A	A
評価の根拠 ・今年度第三者評価受審もあり全員が園の方針や保育目標を理解し実践できた。		
2. 保育について		
① 一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	B	A
② 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	B	A
③ 評価、資料（諸記録）を集積している	B	B
④ 日々の保育実践について振り返りを行い、計画に生かし、子どもの育ちに反映させている	B	B
⑤ 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している	B	A
⑥ 気候や子どもの活動にあわせ、温度・湿度・換気、照度など配慮している	B	A
⑦ 季節の草花などを飾るなど、保育の中で子どもが季節感を感じるように配慮を行っている	B	B
⑧ 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています	A	B
⑨ それぞれの子どもに関する必要な情報を共有している	B	B
⑩ 保育についての話し合いをよくしている	A	C
⑪ 保育士自身が楽しんで保育をしている	A	B
⑫ それぞれの役割を把握し、適切な動きができています	B	B
評価の根拠 ・乳児、幼児、リスク会議等で必要な情報はその都度共有されている。保育についての話し合いはクラス内では話し合いが主になってしまっているため、他クラスの保育士とも話し合い（語り合い）ができるようにしていきたい。		
3. 健康管理について		
① 日々の園児の健康状態を観察し、一人一人の体調に合わせた保育を心がけている	A	A
② 玩具、遊具等については、常に衛生的に保持している	B	A
③ 乳幼児突然死症候群（SIDS）や感染症等の予防の対策やマニュアルが用意されている	A	A
評価の根拠 ・玩具や遊具の消毒を適切に行い衛生的に保つことができた。SIDSや感染症のマニュアルがあり職員に周知されている。		
4. 行事について		
① 行事の種類や実施回数は適切である	B	B
② 行事のねらいを計画や実施に十分生かしている	B	A
評価の根拠 ・新型コロナウイルスが5類に移行後、行事が以前のおこなえている。また、保育参観を実施し保育をってもらう機会となった。 ・行事の取り組みは、子どもに無理のない範囲で行い成長を見られるよう工夫を行ってきたい。		
5. 食育について		
① 食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	B	B
② 旬のものや季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしている	C	B
③ 調理担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしている	C	C
評価の根拠 少しずつメニューは工夫されていて、園土料理も入って子ども達もおいしく食べているが、クッキングや食育の工夫は必要だと感じる。 保育士と調理担当者が連携し、食文化や旬の食材などを知る機会をもち、食への興味関心を持っていくようにしていきたい。 また、調理担当者と子どものコミュニケーションが増えるよう取り組みを考えたい。		
6. 運営について		
① 園長や主任・職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制がある。	B	B
② 各種会議を適切かつ効率的に進めている	B	C
③ 打合せ回数、時間、内容は適切である	B	B
評価の根拠 ・あらかじめ議題を決めるなど、効率よく話し合いが進められるよう工夫して、以前より時間内に終わるようになってきた。 ・乳児、幼児会議を利用しながら日々の保育に繋がる話し合い（語り合い）にしていきたい。		

自己評価の観点		前年度の 評価	本年度 の評価
7. 保健・安全指導について			
① 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じている		B	B
② 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している		B	A
③ 事故や災害に適応できるマニュアルをすぐに見ることができるようにしている		B	A
④ 廊下に落ちているものを拾ったり、トイレのスリッパを揃えたり意識している		A	A
⑤ 室内の衛生、クラス廻りの清掃に心がけ気持ち良い環境に心がけている		B	B
評価の根拠	・マニュアルは整備されている。・室内清掃は分担を決め一人一人が意識することができたが、幼児クラスはクラスによりはちつきがある。室内の整理整頓をみんなで気にかけて声を掛け合って意識していきたい。		
8. 研修について			
① 部内・部外研修への参加態勢の充実を図っている		A	A
② 研修報告を園内で実施している		B	B
評価の根拠	・職員会議は書面で報告され、参加していなくても周知されている。 ・研修報告は復命書を作成し、会議でも報告を行うようにしている。		
9. 情報について			
① 園児の個人記録は個人情報保護法に基づいて管理・保管している		A	A
② 園内で知り得た事柄について守秘義務を徹底している		A	A
③ 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理している		A	A
評価の根拠	書類の管理や情報など個人情報にかかわる内容はしっかり管理している。		
10. 設備について			
① 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている		A	A
② 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している		B	B
評価の根拠	・年3回の施設点検や毎日安全点検を行っている。 ・お知らせ、感染症発生状況、保育内容（ドキュメンテーション）等を掲示し有効活用しているが、レイアウトをもう少し工夫し見やすくしていきたい。		
11. 保護者支援について			
① 子どもの送迎時に子どもの様子を伝えあうようにしている		A	A
② クラス懇談や個別懇談を行っている		B	A
③ 入園説明会やクラスごとの懇談会などでは保育内容や目的をわかりやすく説明し、情報提供を行っている		B	A
④ 保育参観等の機会を設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている		B	B
評価の根拠	・保育参観や行事の機会を通して子どもの様子や保育活動を見てもらい保育の理解に繋がる機会を持つことができた。		
12. 開かれた保育所づくりについて			
① 園庭や保育室等を、地域の子育て親子等に解放している		A	A
② 職員による育児に係る「子育て相談」は充実している		B	B
③ 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している		A	A
④ 中高生の職場体験や実習生の受入を体制について、その意義や方針を全職員が理解している		B	B
⑤ 来客や地域の方に明るく挨拶をしている		A	A
評価の根拠	・職場体験、実習生の受け入れはコロナ禍では中止していたが、今年度実習生を受け入れた。来年度からは職場体験の受け入れも再開する予定である。		
13. 情報発信について			
① えんだより、すこやかねつなどで、情報発信に努めている		B	B
② 行事や子育て支援等を、地域や小学校等に対して周知している		C	B
評価の根拠	・コロナ禍で地域との交流が出来なくなったことで地域への発信も減少してしまっている。 今年度から小学校との連携を再開し始めている。今後は発信方法も含め内容も考え積極的に繋がりを持っていきたい。		
14. 人権擁護について			
① 園児一人ひとりの人格を尊重し、適切な言葉がけや関わりをしている		B	A
② 園児の家庭環境や国籍、性別等の多様性を認識し、差別のない関わりをしている		B	A
評価の根拠	・セルフチャットを通して保育士間で話し合ったり、自分自身の保育を見直し改める機会を持っている。 ・成育歴や家庭環境が一人一人異なるが、それぞれに応じた関わりを心掛けている。		
15. 総括			
年間とおしての振り返りと、子どもの育ちをより豊かなものにするための保育の実現に向けて、今後力を入れて取り組みたい事柄や課題等をお書きください。			
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の課題に対する自己評価及び前年度よりも改善・充実したと考えられる点 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、ほとんどの行事が以前のように行うことができた。また、コロナ禍に始めた保育参観等の新しい取り組みも定着してきた。 ・保育参加や参観等の機会を利用しながら保育の理解につなげていきたい。 ・小学校との連携は再開することができ、来年度からも連携できる環境を整えることができた。 ・課題だと考えられる点や次年度の計画に反映させたい点 ・保育士同士よく話をするようになり、話しやすい環境になってきているが、クラス内では話し合いが主になってしまっているので、他クラスの保育士とも話し合える（語り合い）ができるようにしていきたい。 ・少しずつメニューは工夫されているが、クッキングや食育に関しては積極的には行えなかった。保育士と調理担当者が連携し、さらに食への興味関心を持っていくようにしていきたい。 ・地域、小学校との交流は課題となっていたが、小学校との連携は今年度再開し始めているので、来年度は小学校と交流内容や回数について話し合い深めていきたい。地域との交流はコロナ前の交流状態に戻していき、行事などの参加を積極的に行っていきたい。 			